

大項目		中項目		小項目		回答
1	基本仕様	1	共通	1	医事システムと自動精算機システムをLAN接続（TCP/IPソケットインターフェース）で接続でき、接続仕様は医事システムが提示する仕様書に準拠すること	
1		1		2	自動精算機本体に、診察券（磁気カード・J I S II型）の挿入、患者 I Dバーコードの読取により、自動精算機の画面に当該患者の請求金額を表示できること	
1		1		3	医事システムから送信される以下の内容が受信できること	
1		1		4	・領収書発行に必要な情報	
1		1		5	・診療明細書発行に必要な情報	
1		1		6	・お薬引換券（院内）発行に必要な情報	
1		1		7	収納を制限する情報を医事システムより受け取り、その旨の内容を表示できること。また、病院指定金額以上の請求金額が発生した場合、自動精算機側にて収納を制限できること	
1		1		8	自動精算機に請求額が入金されることにより、医事システムの未収情報が入金済みとなること	
1		2	支払機本体	1	自動精算機の台数は2台とする	
1		2		2	院内の設置スペースを考慮し機器サイズは550mm（W）×750mm（D）×1400mm（H）以内であること	
1		2		3	偽造紙幣や偽造硬貨の収納を防止できること	
1		2		4	患者ID入りの磁気ストライプカードの読取ができるカードリーダを搭載していること	
1		2		5	患者IDのバーコード印字入り用紙が読取れるバーコードリーダを搭載していること	
1		2		6	バーコードリーダは読取用紙を表向きで利用でき、レーザー光が直接目に触れないこと	
1		2		7	操作補助用として本体左右に手すりがあること	
1		2		8	操作を促す人感センサーを内蔵していること	
1		2		9	音声での操作ガイダンス機能があること	
1		2		10	画面を見ていなくてもスムーズに操作が可能のように、請求金額、釣銭金額の金額情報の音声再生対応が可能であること	
1		2		11	操作誘導ランプやスポットライトを有していること	
1		2		12	領収書、診療明細書発行以外の機能として、以下の帳票が自動精算機本体から出力できること	
1		2		13	・職員による現金の入出金操作（釣銭準備金装填、補充、全回収、一部回収、釣銭交換等）を行った際の「入出金前在高」「入出金した金額」「入出金後在高」の金種別情報用紙の発行	
1		2		14	・カード利用明細書の発行及びカード取消時の取消利用明細書の発行	
1		2		15	・カード取引エラー時のエラーコードとその内容が分かるエラー用紙の発行	
1		2		16	つり銭切れ、用紙切れ、その他の異常を感知する機能を備えていること	
1		2		17	診察券／領収書／診療明細書／つり銭紙幣／つり銭硬貨の排出時は、完全に抜き取られるまでセンサー検知を行い、警告音と音声案内メッセージによる取り忘れ防止のための案内ができること	
1		2		18	照明や外光などの画面への映り込みを最小限に抑えるため、設置時に表示部（タッチパネル）の角度を調整できること	
1		2		19	入金確定方法として、以下のどちらでも選択でき、運用後に変更が可能なこと	
1		2		20	・確認ボタン対応：入金額及び釣銭額を目視確認しながら都度入金でき、「確認ボタン」を押すことで入金確定	
1		2		21	・オートスタート対応：入金額が請求額以上になると、自動的に入金確定	
1		2		22	自動精算機本体の保守は、前面扉対応であること	
1		2		24	使い方を分かりやすくするため、青色LEDによる操作誘導と音声ガイダンスを標準装備していること	
1		2		25	操作画面が左右から見えないように、サイドパーテーションがあること	
1		2		26	診察券やクレジットカードの取忘れ防止対策として、専用の鍵付き取忘れ回収ボックスへ取込む機能を有していること	
1		2		27	画面はタッチパネル方式で、15以上の液晶カラーディスプレイであること	
1		2		28	左右側面30度以上の角度からは画面が見えないプライバシー対応モニタであること	
1		2		29	つり銭補充を容易にするため包装硬貨の管理、収納する機能を有すること	
1		2		30	障害発生時に全システムの停止を避けるため、コントローラ（管理サーバ等の通信中継装置）を介さず、個々の精算機と医事システムが別々に通信できること	
1		2		31	エラーが発生した際は、エラー解除箇所エラー解除手順をアニメーション表示が簡単にできること	
1		2		32	紙幣・硬貨詰まりの際は、エラー解除画面においてエラーが発生したときの現金の取り扱いについて、「患者側のお金か」「病院側のお金か」明確に区分できる案内が可能であり、且つ紙幣・硬貨の金種情報別に画面表示する機能を有していること	

大項目		中項目		小項目		回答
1		3	金銭処理	1	入金処理は、以下の金種以上の取り扱いができること	
1		3		2	・紙幣 全金種（一万円、五千元、二千元、一千元）	
1		3		3	・硬貨 全金種（五百円、百円、五十円、十円、五円、一円）	
1		3		4	入金方法について、以下の要件を満たすこと	
1		3		5	紙幣20枚以上の一括混在投入ができること	
1		3		6	硬貨投入口には異物混入やイタズラ防止の為、投入口に開閉シャッター機能を有すること	
1		3		7	出金処理は、以下の金種以上の取り扱いができること	
1		3		8	・紙幣 3金種（一万円、五千元、千円）	
1		3		9	・硬貨 全金種（五百円、百円、五十円、十円、五円、一円）	
1		3		10	出金方法は、紙幣10枚以上（連続出金可能）、硬貨30枚以上（混合一括出金）ができること	
1		3		11	硬貨収納枚数は、五百円105枚、百円160枚、五十円160枚、十円160枚、五円120枚、一円120枚以上であること	
1		3		12	紙幣収納枚数は、一万円札200枚、五千円札100枚（二千円札と合計）、千円札200枚以上であること	
1		3		13	紙幣、硬貨共に、金銭が外部の目に触れることなく、金庫回収ができること	
1		3		14	金銭回収方法として、病院で任意に全額回収／売上金回収の選択ができること	
1		3		15	釣銭準備金装填操作を行った際、自動精算機本体で「装填前在高」「装填した金額」「装填後在高」の金種別情報用紙の発行ができること	
1		3		16	現金回収操作（全回収、一部回収等）を行った際、自動精算機本体で「回収前在高」「回収した金額」「回収後在高」の金種別情報用紙の発行ができること	
1		3		17	硬貨釣銭の出金払出口（受皿）にもセンサー検知が可能であり、釣銭を抜き取るまで取り忘れ警告、取り忘れの音声案内が可能であること	
1		3		18	2024年7月に発行するの新紙幣に対応する機能を有すること	
1		4	デビットカード、クレジットカード取引	1	接触ICクレジットカード及びデビットカード払いの対応ができること	
1		4		2	支払い方法の選択操作はカード払い時のみ発生すること（現金払いの場合は特別な操作が無いこと）	
1		4		3	本院の契約内容に準じて、クレジットカード払い方法として、利用者が任意に1回払い/分割払い/リボ払いの選択ができること	
1		4		4	現金を扱わないカード専用機として利用でき、病院が任意に切替え操作できること	
1		4		5	精算機本体が複数台の場合でも、光回線1本で対応できること	
1		4		6	クレジットカードの取消処理が行える機能を有すること	
1		4		7	監視PCで、カード利用患者を検索・確認できること	
1		4		8	カード利用明細書は、患者様の手間を省くため、領収書用紙とは別のサーマル用紙に印字できること	
1		4		9	決済エラー時（暗証番号間違い等）にエラー内容を画面に表示可能なこと。またその際は、自動精算機本体よりエラー内容が記載された用紙の発行が可能なこと	
1		4		10	EMVレベル1&2に準拠したICカード対応カードリーダー、PCI PTSに準拠したピンパッドを搭載していること	
1		4		11	操作性とカード取忘れ対策の為、オートローディング方式（自走式：カード自動取込み・自動排出）のカードリーダーを採用していること	
1		4		12	日本クレジット協会が公布している『オートローディング診療費支払機のIC対応指針と診療費支払機の本人確認方法について』の代替対策案を基にICクレジット対応化におけるセキュリティ対策を実施していること	
1		4		13	日本クレジット協会が公布している『対面加盟店における非保持化と同等/相当のセキュリティ確保を可能とする措置に関する具体的な技術要件について』の端末に対するセキュリティ対策を実施していること	
1		4		14	診察券挿入待ち時にクレジットカードが挿入された場合、カードリーダーで読み取ったクレジットカード情報を外部送信せずに自動的に消去する機能を有していること	
1		4		15	診察券、接触ICクレジットカード、キャッシュカードが1ヶ所の同じカード挿入口で操作が行えること	
1		5	画面表示	1	患者ID、患者氏名、入院・外来区分、受診年月日、診療科名、請求額（受診日、受診科毎）、請求額合計、入金額、釣銭額、印刷枚数が画面に表示できること	
1		5		2	年月日の表示は西暦／和暦の選択ができること	
1		5		3	外字が含まれた患者氏名の表示ができ、未登録外字の場合はカナ氏名に自動変換できること	
1		5		4	受診年月日、診療科名及び請求額は、見やすくするため診療科明細の表示、非表示の切り替えが可能なこと	
1		5		5	ボタン操作により日本語・英語の音声ガイダンスと画面表示切替え機能があること	
1		5		6	英語の音声ガイダンスと画面表示を利用した場合、1取引終了後に日本語の音声ガイダンスと画面表示に自動で戻る機能を有していること	

大項目	中項目	小項目	回答
1	6	1 領収書、診療明細書発行 1 本院指定の領収項目／レイアウトに対応でき、白紙用紙にフル印字（オーバーレイ）もしくはプレ印刷用紙の利用ができること	
1	6	2 レーザープリンタ（2カセット）を内蔵し、最大A4サイズの領収書及び診療明細書の発行ができること	
1	6	3 サーマルプリンタの場合、1回の補充作業で、領収書及び診療明細書が各2,100枚以上発行できること。またはレーザープリンタ（2カセット）の場合、1回の補充作業で、領収書及び診療明細書は最大A4用紙が各550枚以上発行できること	
1	6	4 ミシン目入りの領収書用紙が使用できること	
1	6	5 年月日の印字は西暦／和暦の選択ができること	
1	6	6 文字種はANK、漢字JIS第1第2水準を網羅すること	
1	6	7 外字が含まれた患者氏名の印字ができ、未登録外字の場合はカナ氏名に自動変換できること	
1	6	8 当日取引分の領収書を本院が任意に選択して、再発行できること	
1	6	9 領収書／診療明細書の取忘れがあった場合、一定の時間が経過した場合は、自動で取り忘れた印刷物を収納し、機器を休止することなく次の患者様の操作が可能なこと	
1	7	管理機能（機監視モニター） 1 自動精算機と窓口精算機、全台を一元管理できる監視モニタを1台用意すること	
1	7	2 OSはMicrosoft Windows11以上であること	
1	7	3 監視PC（制御コントローラ端末等含む）が停止しても自動支払機の取引に影響がなく取り扱えること（制御管理端末等の通信制御装置が不要なシステムであり障害に強いこと）	
1	7	4 以下の帳票出力機能を有すること。また、CSV形式でファイル保存できること	
1	7	5 ・日計表（号機毎、合計／初期設定額、補充金額、取引金額、現金有高が金種別集計されたもの）	
1	7	6 ・処理単位、領収書単位の利用明細表（号機毎、合計／患者ID、取引時間、入出金額が印字されたもの）	
1	7	7 ・入院・外来別売上表（号機毎、合計）	
1	7	8 患者IDの入力により、特定の患者を検索できること	
1	7	9 ID、パスワードの入力に準じた操作者を特定できる利用者認証が可能な機能を有すること	
1	7	10 利用者認証による操作履歴は、現金回収指示等の自動精算機への操作指示及び日計表、クレジットカード利用明細の内容確認や印刷を行った帳票も対象とすること	